

# パークレット設置を通じた 滞在者行動に関する一考察

阿部 正太郎<sup>1</sup>・松田 聡司<sup>2</sup>・飯田 哲徳<sup>3</sup>・水澤 克哉<sup>4</sup>・田村 将太<sup>5</sup>・田中 貴宏<sup>6</sup>

<sup>1</sup>正会員 (株) 建設技術研究所 (〒541-0045 大阪市中央区道修町1-6-7) E-mail: str-abe@ctie.co.jp

<sup>2</sup>非会員 (株) 建設技術研究所 (〒541-0045 大阪市中央区道修町1-6-7) E-mail: sts-matsuda@ctie.co.jp

<sup>3</sup>非会員 (株) 建設技術研究所 (〒541-0045 大阪市中央区道修町1-6-7) E-mail: y-iida@ctie.co.jp

<sup>4</sup>非会員 (株) 建設技術研究所 (〒103-8430 東京都中央区日本橋浜町3-21-1) E-mail: kty-mizusawa@ctie.co.jp

<sup>5</sup>正会員 広島大学大学院 (〒739-8527 東広島市鏡山1-4-1) E-mail: tamuras@hiroshima-u.ac.jp

<sup>6</sup>正会員 広島大学大学院 (〒739-8527 東広島市鏡山1-4-1) E-mail: ttanaka@hiroshima-u.ac.jp

道路空間を柔軟に活用することを目的に、2020年6月に新型コロナウイルス感染症に対応するための沿道飲食店等の路上利用に伴う道路占用許可基準の緩和する特例措置が設けられ、2020年11月には沿道飲食店の歩道上に滞在可能な空間を創出する歩行者利便増進道路制度（通称「ほこみち」）が創設された。同制度はまちなかの賑わい創出に寄与すると考えられる一方、滞留空間創出に対する評価手法は確立されたものがなく、今後、道路空間を活用した空間創出を広めていくには、滞在者の行動特性や滞留空間の快適性等の観点から空間創出の効果を把握する必要がある。

そこで本研究は、東広島市において、コロナ特例を活用した歩道上のパークレット設置実験の定点映像より滞在者の属性や滞在時間等をデータ化し分析することで、道路上の滞留空間内における滞在者の多様な行動特性について考察した。

**Key Words** : Road Space, Street Parklet, Visitor Behavior, Walkable

## 1. はじめに

昨今、海外を中心に道路空間を利活用するニーズが高まっており、国内においても、居心地がよく歩きたくなるまちなかの実現に向け、道路の有する機能として、交通機能だけでなく、歩行者が滞留する賑わい空間機能を加え、多様なニーズに応えることが求められている<sup>1)</sup>。

特に2020年6月には、新型コロナウイルス感染症による新しい生活様式への対応等のため、沿道飲食店等の路上利用に伴う道路占用許可基準の緩和する特例措置が設けられた。また、2020年11月に沿道飲食店の歩道上に滞在可能な空間を創出する歩行者利便増進道路制度（通称「ほこみち」<sup>2)</sup>）が創設され、同制度により、歩道上に椅子やテーブルなどの占用が可能となり、歩行者の滞留を促し、まちなかの賑わい創出への寄与が期待される場所である。

一方で、施策実施においては、評価体系を確立し、効果を把握することで、事業継続性を判断することが

重要である。特に、賑わいの評価手法としては、これまでも様々な計測手法・評価手法が提案されているところである。今後、道路空間を活用した空間創出を広めていくには、歩行者等の滞在者に着目し、その行動特性や滞留空間の快適性等の観点から道路の空間機能の効果を把握する必要がある。

ここで、道路空間の活用として、本稿では道路上におけるパークレット整備に着目した。道路空間を広場化する取組として2005年のサンフランシスコで始まったパークレット整備は、その後、パーキングデーとして他都市への広がりを見せている<sup>3)</sup>。サンフランシスコの事例では、このようなパークレット整備は、カフェやレストランによる運営が主流で<sup>4)</sup>、主に飲食で利用される他、会話や携帯操作、遊び、読書、PC作業など多様な行動が観察されている<sup>5)</sup>。国内においても、パークレットの設置により、会話や遊ぶ・見る行為による滞留が生まれることや<sup>6)</sup>、パークレットが一部の年代に対し屋外でゆっくりと座る行動意欲に正の影響

を与えることが報告されている<sup>7)</sup>。

以上を踏まえ本稿は、東広島市において、コロナ特例を活用した歩道上のパークレット設置実験の定点映像より滞在者の属性や滞在時間等をデータ化し分析することで、道路上の滞留空間内における滞在者の多様な行動特性を把握した上で、行動特性が滞在時間を与える影響について分析し考察した。

## 2. 実験概要

### (1) 対象地

パークレットは、広島県東広島市の西条駅前地区の西条中央公園及びメインストリートであるブルーバールを活用し、歩いて楽しい魅力と賑わいのある街を目指し実施された「街なか賑わい創出のための社会実験（以下、社会実験）」における実験項目の1つとして取り組まれた。パークレットは図-1に示す実験実施箇所のうち、西条中央公園東側ブルーバールの幅員約8mの歩道に2021年11月19日（金）から12月26日（日）の期間のイベント開催に合わせて設置された。本稿では、実験1日目～3日目の11月19日（金）～21日（日）の実験参加状況やパークレットの利用状況を主な対象とした。同日は、西条中央公園内に図-2に示すキッチンカー及びバルーンやキャンドルを設置する「光のアートガーデン」イベントが開催された。

### (2) パークレットの概要

パークレットの設置状況を図-3、図-4にそれぞれ示す。パークレットは西条中央公園東側、ブルーバールの南北歩道約40mの区間に設置した。北側に人工芝を設置し、その上にベンチとテーブル、主に子供を対象とした黒板と椅子を設置し、南側に歩道上に椅子とテーブルを設置した。このうち、本稿では、図-5に示す人工芝上にベンチやテーブル、遊び場を設置した空間を対象エリアとした。また、分析にあたりパークレット内に設置した椅子やテーブルを基準に、A1～A4のエリアを区分した。このうち、同図内のA1、A2に設置したベンチとテーブルは実験実施に合わせて、広島大学大学院先進理工系科学研究科が設計・施工した。

設計にあたっては、当該エリアが芸術文化交流ゾーンに位置づけられていること、西条中央公園の隣に位置すること、歩道が広いこと、交通量が多いこと、多様な利用者がいることなどの周辺環境を踏まえ、「座る」、「遊ぶ」、「作る」、「披露する」の4つの機能をコンセプトにデザインされた。

パークレットは西条中央公園でのイベント開催に合わせて設置しており、11時に設営完了、20時に撤去する運用とした。



図-1 東広島市社会実験実施箇所<sup>8)</sup>



図-2 キッチンカーとイベント開催の様子



図-3 パークレットの設置（北側）

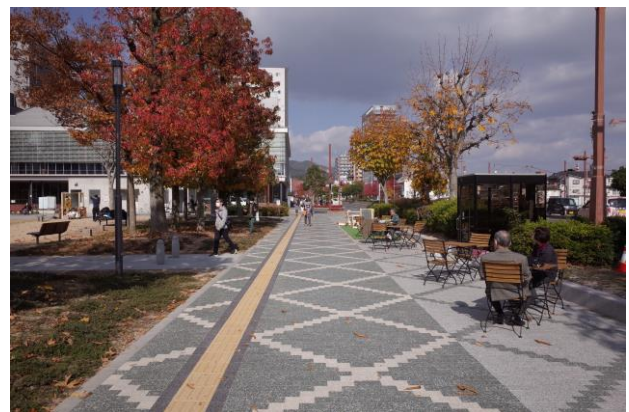


図-4 パークレットの設置（南側）



図-5 パークレットのエリア区分

3. 調査概要

(1) 調査目的

社会実験として実施した賑わい創出実験の実施効果の把握と、歩道上のパークレット設置による滞在性確認を目的とした調査を実施した。

(2) 調査方法

a) 賑わい創出実験実施効果に関する調査

賑わい創出実験の実施効果計測を目的に、パークレットを設置したブルーパール歩道部の断面交通量調査と国土交通省が作成した「まちなかの居心地の良さを測る指標（案）」<sup>9)</sup>に基づくまちなかの歩きやすさを評価する調査（以下、居心地の良さに関する調査）を実施した。交通量調査は実験中と実験後に、居心地の良さに関する調査は実験前と実験中にそれぞれ調査した。調査箇所を図-6に、交通量調査と居心地の良さに関する調査の概要を表-1、表-2にそれぞれ示す。

b) パークレット利用者の滞在性把握に関する調査

パークレット利用者の滞在性の把握を目的に、対象エリアの全景が確認できる位置に定点カメラを設置し、利用人数や滞在時間等を調査した。実験1日目は、実験

表-1 交通量調査概要

調査方法	断面交通量のカウント調査	
調査対象	西条中央公園東側ブルーパール歩道の方向（南北）別の歩行者・自転車交通量	
調査日	実験中	平日：2021/11/19（金） 休日：2021/11/20（土）
	実験後	平日：2021/11/22（月） 休日：2021/11/23（水・祝）
調査時間	10～20時（10時間）	

表-2 居心地の良さに関する調査概要

調査方法	国土交通省が作成・公表した「まちなかの居心地の良さを測る指標（案）」に基づく調査	
調査対象	西条中央公園東側ブルーパール歩道	
調査日	実験前	平日：2021/11/12（金） 休日：2021/11/13（土）
	実験中	平日：2021/11/19（金） 休日：2021/11/20（土）
調査時間	12～17時頃	
調査員数	実験前	平日：2名 休日：3名
	実験中	平日：3名 休日：3名

表-3 パークレット利用者の滞在性把握調査概要

調査方法	定点カメラ調査	
調査対象	エリア別のパークレット利用者（調査対象単位は個人単位ではなく、グループ単位とした）	
調査日	実験中	休日①：2021/11/20（土） 休日②：2021/11/21（日）
調査時間	11～20時	
調査項目	滞在開始時刻	
	パークレットにきた方向	
	パークレットから出ていく方向	
	大人人数	
	子供人数 <sup>(1)</sup>	
	着座の有無	
	乳児連れの有無	
	属性（ひとり・家族・パートナー・友人・その他グループ）	
	行動（飲食・見学・遊び・談笑・携帯電話等の利用・休憩）	

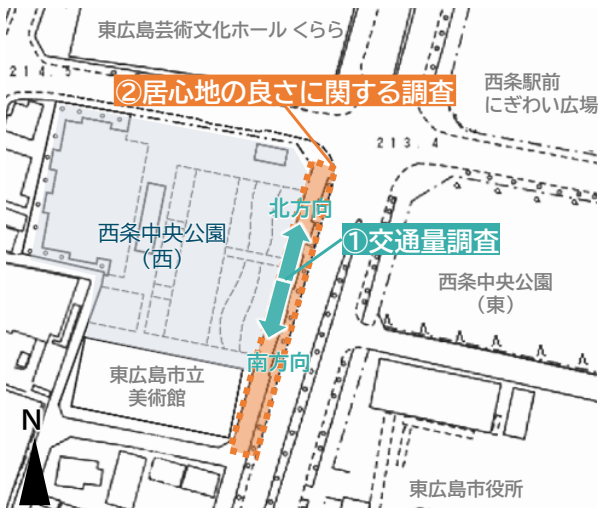


図-6 調査箇所

初日でありパークレット設置が午後に跨ったため、実験2日目、3日目の11月20日（土）、21日（日）に調査を実施した。

調査方法は図-5のとおり、A1 から A4 のエリアごとに、表-3に示す滞在者の属性や行動を集計した。

#### 4. 賑わい創出実験結果

パークレットを設置したブルーバール歩道断面の交通量調査及び居心地の良さに関する調査から、賑わい創出実験による効果を把握した。

##### (1) 交通量調査

パークレットを設置したブルーバール歩道の北方向・南方向の交通量調査結果を図-7、図-8にそれぞれ示す。平日と休日のどちらも、実験中の方が、歩行者と自転車を合わせた交通量が多い結果となり、北方向と南方向のどちらも約1.8~1.9倍に増加している。特に平日は歩行者だけでなく、自転車の交通量も増加している。西条中央公園でキッチンカー出店や光のアートガーデンイベントを実施したことにより、交通量が増加しており、特に平日は、帰宅中の中高生の姿が多くみられた。

##### (2) 居心地の良さに関する調査

パークレット設置箇所の居心地の良さに関する調査

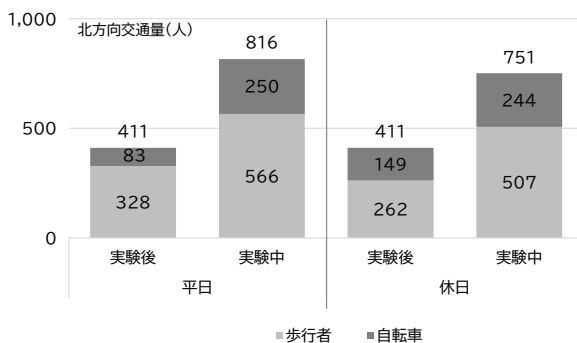


図-7 北方向の交通量

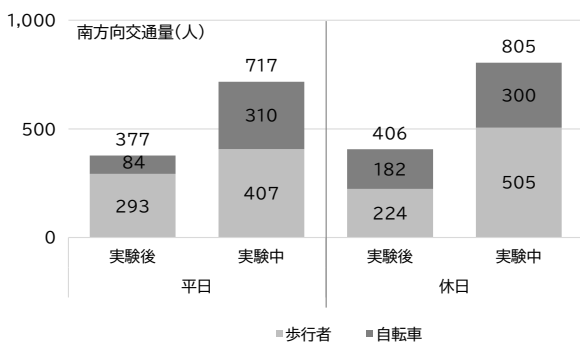


図-8 南方向の交通量

結果を表-4に示す。実験前に比べ実験中の方がほとんどの項目で得点が増加する傾向にある。また、休日と比べて平日の実験中に得点が増加する傾向にあり、パークレット設置により滞在性が促進され、多様な行動が可能となっていると考えられる。実験後と実験中でスコアを比較すると、平日は、「友達と来て楽しく過ごせる」、「恋人と来て楽しく過ごせる」、「人との新しい出会いがありそう」の指標の増加率が他の指標に比べて大きく、休日は「仕事をする場として使える」の指標の増加率が大きい。パークレットの設置により、道路上の滞在が生まれ、魅力に対する評価が向上したと考えられる。

#### 5. パークレット利用者の滞在性分析

##### (1) パークレットの利用傾向

##### a) 利用グループ数と滞在時間

パークレットへの滞在傾向として、本稿で対象としたA1からA4のエリア別に利用グループ数を集計した結果を図-9に示す。調査は表-3の概要に示したとおり、パークレット利用者をグループ単位に集計している。ここで、居心地の良さに関する調査では、3分以上滞在している場合を滞在者と定義していることから、集計時に3分未満と3分以上を区分して集計した<sup>2)</sup>。

利用グループ数が最も多かったエリアはA4で、子供

表-4 居心地の良さに関する調査結果

	平日			休日		
	実験前	実験中	増加率	実験前	実験中	増加率
居心地が良い	2.25	3.50	1.56	3.50	3.50	1.00
賑わいがある	1.25	1.75	1.40	2.50	3.25	1.30
独特の雰囲気がある	2.00	2.75	1.38	1.50	2.63	1.75
家族と来て楽しく過ごせる	2.00	3.00	1.50	3.25	3.50	1.08
赤ちゃんを連れていても快適に過ごせる	2.50	3.25	1.30	3.50	3.50	1.00
仕事をする場として使える	1.50	2.50	1.67	1.25	2.88	2.30
友達と来て楽しく過ごせる	1.25	2.75	2.20	2.50	3.25	1.30
恋人と来て楽しく過ごせる	1.25	3.00	2.40	2.50	3.13	1.25
歩きたくない	2.00	3.25	1.63	3.00	3.38	1.13
滞在したい	1.75	3.25	1.86	2.50	3.38	1.35
人との新しい出会いがありそう	1.50	3.25	2.17	2.00	3.00	1.50
また来たい	2.00	3.25	1.63	2.50	3.13	1.25
平均点	1.77	2.96	1.67	2.54	3.21	1.26

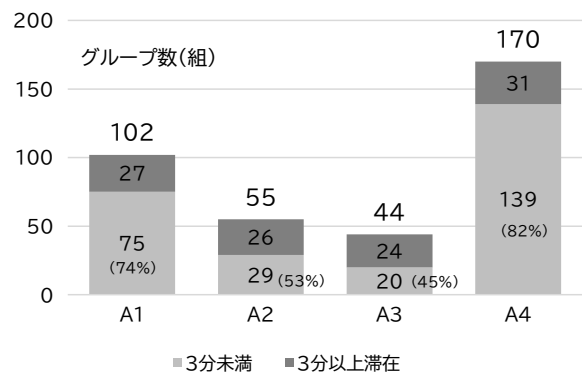


図-9 パークレット利用グループ数

用の遊び道具を設置したエリアであった。A4エリアは3分以上利用した（以下、「滞在した」）グループ数も他のエリアに比べ、やや多い結果となった。ただし、A4エリアは3分未満の利用が約82%を占めていた。A1からA3のテーブルやイスを配置したエリアでは、A1のベンチとテーブルのエリアが最も利用したグループ数が多く、滞在したグループ数もA2、A3に比べて多い結果となった。A3のエリアは、利用したグループ数が最も少ないものの、3分以上滞在したグループ数が、3分未満のグループよりも多い結果となった。

以降では、3分以上の利用となる、パークレットに滞在したグループに着目した集計・分析を示す。

次に、グループ別の人数を大人・子供を区分し集計した結果を図-10に示す。同図には、エリア別の滞在したグループの平均人数も示した。

大人の滞在人数は、A1で最も多く、次に、A2、A4と続く。子供の滞在人数は、A4が最も多く、A1、A2とつづく。平均滞在人数は、A1の2.7人が最も多く、A4が1.6人で最も少ない。A1、A2は、ベンチとテーブルを設置しており、どちらも1度に4名程度が着席できることから利用人数が多かったと考えられる。

次にグループ別の滞在時間をエリア別に集計した結果を図-11に示す。滞在時間はA3エリアで多く、平均

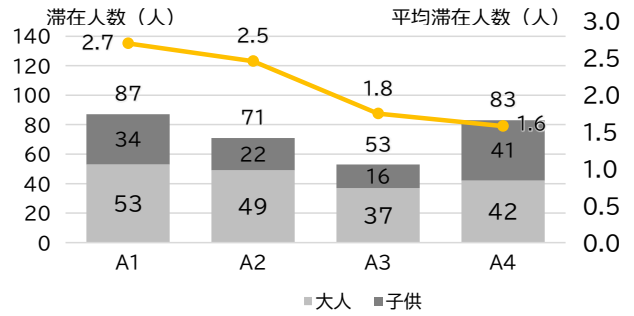


図-10 エリア別の滞在人数

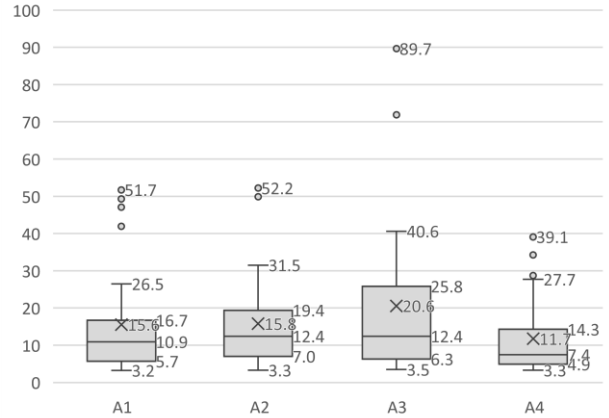


図-11 エリア別の滞在時間

表-5 滞在グループ特性

	滞在グループ数(組)				滞在人数(人)				平均滞在時間(分)				
	A1	A2	A3	A4	A1	A2	A3	A4	A1	A2	A3	A4	
来訪時刻	11-12時	1	0	1	0	5	0	2	0	12.5	-	3.6	-
	12-14時	3	6	4	4	13	16	8	11	46.1	16.5	36.3	10.5
	14-16時	4	4	4	9	12	14	8	27	20.6	22.9	16.0	17.2
	16-18時	8	6	7	9	18	13	14	20	10.8	16.2	24.1	11.8
	18時以降	11	10	8	9	39	28	21	25	9.1	12.2	14.0	6.8
公園との接続*1	公園から移動	12	12	12	14	39	35	28	38	14.8	15.7	24.1	15.9
	公園へ移動	8	7	10	15	30	23	20	44	19.9	15.1	28.1	12.5
大人人数	0人	1	1	2	3	30	23	20	44	13.1	52.2	5.4	10.0
	1人	6	4	10	15	13	8	19	42	10.1	25.0	19.2	15.1
	2人	17	19	11	12	51	49	25	30	15.7	12.1	22.8	8.6
	3人以上	3	2	1	1	20	11	5	4	26.5	13.9	40.6	4.0
子供人数	0人	9	12	15	11	20	11	5	4	8.6	13.5	21.3	10.0
	1人	7	9	3	11	20	25	7	24	20.6	13.4	10.5	9.9
	2人	7	3	5	4	27	11	14	14	15.0	18.1	10.7	14.6
	3人以上	4	2	1	5	23	10	4	26	23.5	36.4	89.7	17.3
着座	立っている	1	1	1	7	2	2	4	16	5.7	3.4	24.0	7.6
	座っている	26	25	23	24	85	69	49	67	15.9	16.3	20.4	13.0
乳児連れ	2	2	0	1	4	4	0	2	12.0	7.8	-	14.3	
属性	ひとり	1	1	5	5	1	1	5	5	5.4	49.9	11.8	10.0
	家族	18	15	7	20	59	42	21	58	15.9	14.8	23.4	11.5
	パートナー	2	4	4	2	4	10	8	4	6.0	4.9	15.6	4.1
	友人	5	5	8	3	13	11	19	9	18.1	19.7	26.1	17.3
	その他グループ*3	1	1	0	1	10	7	0	7	26.5	20.6	-	23.3
行動*2	飲食	20	24	18	10	67	65	37	30	18.6	16.5	23.2	18.2
	見学(パネル等の展示物)	7	9	1	8	25	22	4	19	11.4	17.5	89.7	8.1
	遊び	5	8	3	25	20	28	9	74	16.1	20.8	33.2	11.5
	談笑	18	16	14	4	66	44	34	11	19.2	15.5	24.7	13.6
	携帯電話等の利用	19	15	8	13	67	38	20	34	18.5	14.3	21.7	12.8
	休憩	5	1	2	0	13	1	4	0	9.7	49.9	11.6	-

\*1:「公園から移動」は公園からパークレットに移動、「公園へ移動」はパークレットから公園への移動を指す

\*2:滞在時間は行動別の時間ではなく、各グループでみられた行動の合計時間を計測

\*3:複数の家族・友人グループで利用している場合をその他グループとした

※着色は(各カテゴリ)×(A1~A4エリア)内で数値が大きいものほど濃い色で着色

20.6分であった。一方、A1、A2エリアの平均滞在時間は15分程度であった。

b) 滞在グループの特性

滞在グループの来訪時刻や、大人・子供人数などのグループ特性をカテゴリ化し、滞在グループ数と滞在人数、平均滞在時間を集計した結果を表-5に示す。

来訪時刻は、夜間にかけて、滞在グループ数や滞在人数がどのエリアも増加傾向にある。一方で、滞在時間は、昼の時間帯が長い傾向にある。光のアートガーデンのイベントが16時から開催されていたこともあり、滞在者数が夜間に増加したと考えられる。一方で、集計期間の2021年11月19-20日の気温<sup>10)</sup>は、最高気温18度、最低気温1度と、特に夜間は冷え込むことから、滞在時間は夜間ほど短い傾向がみられる。

パークレット利用前後の行動をみると、公園から移動したグループが多く、公園へ移動したグループは、A4で多い。滞在時間は、公園から移動と公園へ移動のどちらも、A3で長くなる傾向がみられた。

属性をみると、A1、A2、A4は家族で来訪するグループが多く、人数も多い。A3は友人が最も多く、他のエリアよりも多い。滞在時間は、どのエリアも、家族と比較して友人の方が、滞在時間が長い傾向にある。

行動をみると、A1からA3は飲食をするグループが多く、関連して談笑や携帯電話等の利用も多くなっている。A4は遊びのグループが多く、滞在人数も多い。滞在時間をみると、飲食や談笑の滞在時間が長い傾向にある。A3は、見学や遊びの滞在時間が長い傾向にある。A4エリアは遊びスペースが中心のため、休憩している滞者はみられないが、どのエリアの滞在グループも多様な行動をしており、道路上にパークレットを設置することで、多様な滞在が生じていることがわかる。

(2) 滞在時間要因の分析

本稿では、パークレットにおける滞在時間に着目し、表-3に示した滞り者特性や行動を説明変数とし、滞在時間に及ぼす影響の把握を目的に数量化1類分析を実施

した。

各説明変数のカテゴリスコアを図-12に示し、各説明変数のレンジと偏相関係数を図-13に示す。

数量化1類分析の結果、重相関係数は0.680であった。

パークレットに着目すると、A1、A2のカテゴリスコア（以下、スコア）が滞在時間に対し負の値を示す一

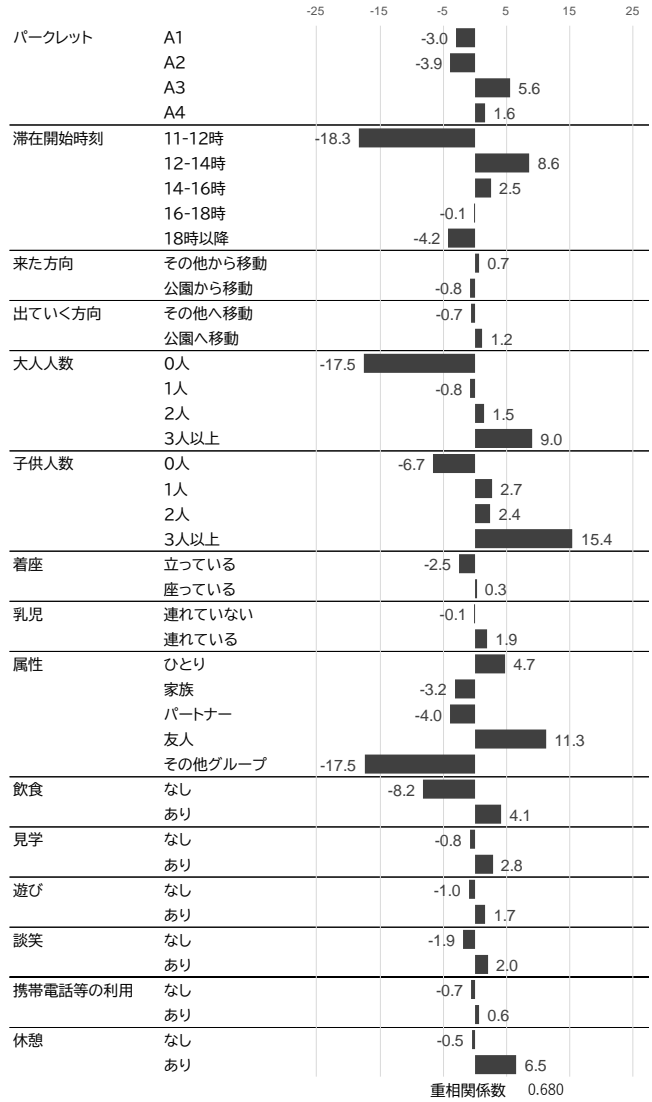


図-12 数量化1類分析結果

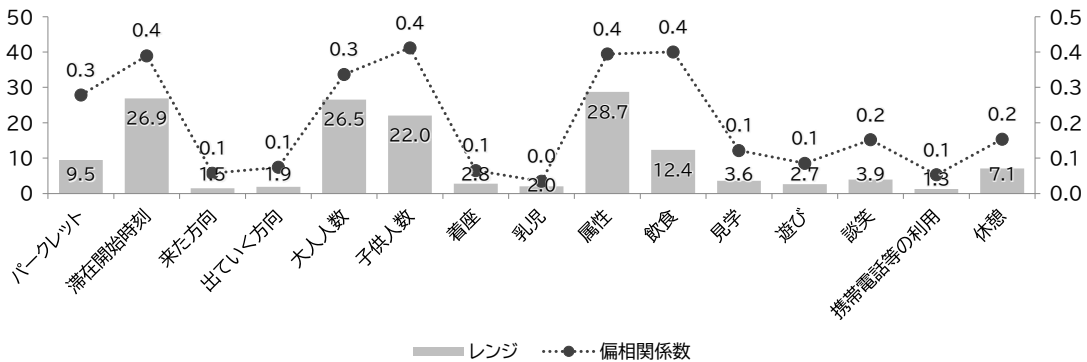


図-13 レンジと偏相関係数

方で、A3、A4は正の値を示す。今回の実験でパークレットは設置時間を限定しており、滞在人数と滞在時間はトレードオフの関係にある。A1、A2は滞在グループと滞在人数が多かったことから、滞在時間に対し負の影響がみられたと考えられる。

次に滞在開始時刻をみると、12時以降の昼の時間帯でスコアが正の値を示す。一方で、16時以降は負の値となった。上記のとおり、光のイベントの開催に合わせて、滞在グループ・人数は増加する傾向にあるが、気温が下がるため、夜間ほど滞在時間が短くなる傾向がみられる。特に滞在開始時刻のレンジは、2番目に大きく、滞在時間に及ぼす影響が大きい。

滞在人数は、大人・子供どちらもグループ内の人数が多いほどスコアが大きくなる傾向にあり、乳児連れの場合も、スコアが正の値を示す。人数が増加により、談笑等の行動機会が増加するためと考えられる。

属性は、ひとりの場合と友人のグループのスコアが正の値を示した一方で、家族・パートナーや、複数属性が滞在する他のグループのスコアが負の値となった。特に、属性はレンジがもっとも大きく滞在時間を与える影響が大きいことがわかる。ひとりの場合や友人の場合に滞在時間に正の影響を与える要因として、生活行動を共にする他者がいないため、滞在快適性に対する滞在時間を自身で決定できることが一因として推察できる。

行動は、飲食・見学・遊び・談笑・携帯電話等の利用・休憩のいずれも、行動ありの場合はスコアが正の値を示し、行動なしの場合は負の値を示す。レンジをみると、行動の中では飲食が最もレンジが大きく、次に休憩、談笑の順に数値が大きい結果となった。

## 6. おわりに

道路空間を活用した賑わい創出として、本稿では東広島市における賑わい創出実験内の1つの取組みとして設置されたパークレットに着目し、利用者の滞在傾向を分析した。得られた主な成果を以下に示す。

- 賑わい創出実験実施により、実験を実施していないときに比べ、パークレットを設置したブルーパールの通行者は約1.8~1.9倍に増加した。
- まちなかの居心地の良さに関する調査を実験前と実験中に実施した結果、道路空間として、「友達と来て楽しく過ごせる」、「恋人と来て楽しく過ごせる」、「人との新しい出会いがありそう」、「仕事をする場として使える」などの魅力が向上していた。
- パークレット利用グループは、黒板等を設置し

た遊び要素を取り入れたエリアで多く、次に広島大学で制作したベンチ・テーブルのエリアが多い結果となった。滞り者として定義した3分以上の滞りは、どのエリアも2日間で20~30組程度みられた。

- 滞在時間に影響を及ぼす要因を分析した結果、グループ属性の影響が最も大きく、ひとりや友人のグループで滞在時間が伸びる傾向にあった。また、滞在開始時刻の影響もあり、昼間に滞在時間が伸びる傾向がみられた。
- パークレットのエリア別にみると、広島大学で制作したベンチ・テーブルのエリアで滞在時間が減少する傾向がみられたが、家族連れの滞在グループ数等が多く、滞在時間とトレードオフの関係にあることが一因として考えられた。
- 以上より本稿では、パークレットにおける滞在行動に着目し、滞在人数や滞在時間の指標を取り上げた。賑わいは滞在人数と時間の関係のように、1指標での評価は困難なため、複数の視点から賑わいを評価することが重要である。

### 補注

- (1) 小学生以下と判断できる場合及び制服を着ている場合に子供と判断した。
- (2) 3分以上滞りしているグループを集計対象としており、集計対象は着座せず、立ち寄りで過ごす人を含んでいる。

### 参考文献

- 1) 国土交通省：多様なニーズに応える道路 ガイドライン，2022。
- 2) 国土交通省：ほこみち，<https://www.mlit.go.jp/road/hokomichi/> (2022.09 最終閲覧)。
- 3) Luca Bertolini: From "streets for traffic" to "streets for people": can street experiments transform urban mobility?, *Transport Reviews*, 40:6, p.734-753, 2020.
- 4) Hélène Litke: Revisiting the San Francisco parklets problematizing publicness, parks, and transferability, *Urban Forestry & Urban Greening*, Volume 15, p.165-173, 2016.
- 5) 遠藤 新：サンフランシスコにおける道路の広場化デザインに関する考察，日本建築学会計画系論文集，81巻，725号，p.1589-1599，2016。
- 6) 伊藤 孝紀，岩崎 翔太，鈴木 篤也，西田 智裕：道路空間再編に向けた社会実験の効果検証，日本建築学会計画系論文集，86巻，779号，p.197-207，2021。
- 7) 伊藤 亜由美，中村 一樹，井料 美帆，野地 寿光：名古屋市の拠点エリアにおけるウォークアブルな空間デザイン要件の導出，都市計画論文集，56巻，3号，p.819-826，2021。
- 8) 東広島市：東広島市まちづくり通信 vol.2，2021。
- 9) 国土交通省：まちなかの居心地の良さを測る指標（案），[https://www.mlit.go.jp/toshi/toshi\\_machi\\_fr\\_000009.html](https://www.mlit.go.jp/toshi/toshi_machi_fr_000009.html) (2022.09 最終閲覧)
- 10) 気象庁：各種データ・資料，[https://www.mlit.go.jp/toshi/toshi\\_machi\\_fr\\_000009.html](https://www.mlit.go.jp/toshi/toshi_machi_fr_000009.html) (2022.09 最終閲覧)

Studies of visitor behavior on the conducting of Street Parklet

Shotaro ABE, Satoshi MATSUDA, Yoshinori IIDA, Katsuya MIZUSAWA,  
Shota TAMURA, Takahiro TANAKA